

第2節 多様な環境情報の収集と提供

1 えひめの環境ホームページ

本県の環境情報を県民に広く提供するために、「えひめの環境ホームページ」を平成15年3月に、より見やすくリニューアルした。このホームページでは、環境施策全般に関するお知らせ、環境白書、環境関係条例、要綱、環境影響評価等の情報を提供し、随時、内容の更新を行っており、様々な環境情報を見ることができる。



URL <http://www.pref.ehime.jp/kankyou/k-hp/index.html>

2 環境地理情報システム（環境GIS）

環境白書等に掲載している本県の環境情報等を地図上に重ね合わせて提供する「環境地理情報システム（環境GIS）」を構築し、インターネット上で提供する体制を整備した。

このシステムでは、環境教育・学習の振興や県民・事業者による環境保全活動の活性化を目的として、大気、水質等の観測データ、各種規制区域、自然公園区域等の区域データ、えひめ自然100選等の施設データ、文化財の名称・関連資料などの情報を、地図上のポイントをクリックすることにより呼び出すことができる。

URL <http://envgisv02.pref.ehime.jp/>

3 環境創造センターホームページ

環境創造センターの取組みや、客員研究員が持つ様々な研究情報をホームページへ掲載し、情報発信している。

URL <http://www.pref.ehime.jp/030kenminkankyou/060kankyou/00004434040203/souzou/>

4 愛媛県原子力情報ホームページ

県の放射線監視テレメータシステムで常時収集している伊方発電所周辺測定局の放射線データ（空間放射線線量率等）等を、リアルタイムで提供している。

また、伊方発電所の運転状況等の最新データ、伊方発電所の異常時通報連絡に係る県の報道発表資料、伊方原子力発電所環境安全管理委員会の開催状況等の原子力情報を、随時提供している。

URL <http://etelmtsv.pref.ehime.jp/>

5 えひめの循環型社会づくりホームページ

県内における廃棄物の減量化・リサイクルに関する取組を促進するため、3Rイベント・グループ及びリサイクル製品の紹介や循環資源交換情報などを盛り込んだ「えひめの循環型社会づくり」ホームページを作成し、広く県民に情報提供している。

URL <http://www.pref.ehime.jp/030kenminkankyou/140junkanshakai/00004731040517/index.html>

6 愛媛県バイオマスのホームページ

環境先進県を目指す県では、えひめバイオマス利活用マスタープランを策定し、大気中の二酸化炭素を増加させず、持続的に再生可能な資源であるバイオマス資源の利活用に積極的に取り組んでいる。

この県の取組を紹介するため「愛媛県バイオマス」のホームページを作成し、広く県民に情報提供している。

U R L <http://www.pref.ehime.jp/030kenminkankyou/060kankyou/00007099050804/biomain.htm>

7 P R T R（化学物質排出把握管理促進法）のホームページ

化学物質は便利で快適な生活になくってはならないものであるが、それが環境に排出されたときに人の健康や生態系にどのような影響を及ぼすのかまだよく分かっていないものがある。そこで、どんな化学物質がどこからどれだけ大気や水域に排出されているのかを把握する仕組みとしてP R T Rが作られた。

このP R T Rの制度の紹介や過去の集計掲載した「P R T R（化学物質排出把握管理促進法）」のホームページを作成し、広く県民に情報提供している。

U R L <http://www.pref.ehime.jp/030kenminkankyou/060kankyou/00005442040812/PRTRmain.htm>

8 地球環境の保全に関する情報提供

愛媛県体験型環境学習センター（えひめエコ・ハウス）パンフレット

- ・ 内 容 地球温暖化を防止する第一歩を支援する施設として開設された愛媛県体験型環境学習センター（えひめエコ・ハウス）の紹介
- ・ 規格及び部数 A 4 版 8 ページ 10,000部
- ・ 配 布 先 県関係機関、市町村、小中学校等

9 えひめ環境家計簿ホームページ

家庭から排出される二酸化炭素の量が簡単に計算できる環境家計簿や省エネ診断、エコライフのアイデアBANKなど、楽しみながらライフスタイルチェックができるホームページを作成し、情報提供している。

U R L <http://www.pref.ehime.jp/030kenminkankyou/010kenminkouryu/00006193050309/index.html>

第3節 環境保全意識の高揚

1 体験型環境教育イベント「ゼロエミフェスタ2004体験・発見・みんなの地球」の開催

環境の世紀といわれる21世紀を迎え、次代を担う子ども達や一般県民の環境保全意識を情勢するため、愛媛新聞社や松山市などと共同して、環境について学び、体験できる体験型環境教育イベントを開催した。



イベントの様子

- ・日 時 平成16年6月12(土)～6月13日(日)
- ・会 場 えひめこどもの城(えひめエコハウスを中心とした全エリア)
- ・内 容 こどもエコクラブ交流会、こども環境講演会、リサイクル体験、自然発生ゲーム、ネイチャーゲーム、環境啓発図画コンクール作品等の展示など
- ・参加者 約2万人

2 環境啓発図画コンクール

環境意識啓発用図画を小中学生、高校生を対象に募集し、優秀作品を体験型環境教育イベント及び環境白書等へ掲示し、県民の環境意識の高揚を図った。

- ・募集対象 県内小学生・中学生・高校生
- ・募集期間 平成16年4月1日(木)～平成16年5月31日(月)
- ・応募点数 192点(小学生65点、中学生76点、高校生51点)
- ・金 賞 3点(小学生1点、中学生1点、高校生1点)
- ・銀 賞 6点(小学生2点、中学生2点、高校生3点)
- ・銅 賞 9点(小学生3点、中学生3点、高校生3点)

3 クリーン愛媛運動

- ・目 的 豊かな自然と風土に恵まれたふるさと愛媛の住みよい快適な生活環境を創造する。
- ・運動内容 昭和52年度から7月をクリーン愛媛運動強調月間、また、国が定めた環境衛生週間(9月24日～10月1日)中を秋のクリーン愛媛運動実施週間とし、県民意識の啓発と県民総参加による河川、海岸、道路、公園等公共施設などの清掃美化活動を展開しており、平成16年度は、延べ約36万5400人の県民の参加を得て環境美化活動を実施した。

4 えひめ環境賞顕彰事業

環境先進県えひめを目指す愛媛県では、平成16年度にえひめ環境賞を創設し、地域の住民、団体及び企業が自主的かつ主体的に取り組んでいる、環境保全活動及び環境創造活動、環境保全及び環境創造の意欲の増進並びに環境教育に貢献のあったものを表彰することとし、県民全体の環境に対する保全及び創造の意識の醸成に促進を図った。

- 表彰の対象 地域の環境保全及び環境創造活動に貢献のあったもの
地域の環境保全及び環境創造活動の意欲の増進に貢献のあったもの

地域の環境教育に貢献のあったもの

平成16年度の受賞者 四国カプトガニを守る会（西条市）

NPO法人愛媛リサイクル市民の会（松山市）

山本栄治（内子町）



（左側）授賞式（右からNPO法人愛媛リサイクル市民の会理事長吉田啓二氏、知事、四国カプトガニを守る会会長山路武人氏、山本栄治氏）

（右側）NPO法人愛媛リサイクル市民の会主催のフリーマーケットの様子

5 自然保護思想の普及啓発

県内のすぐれた自然を県民共通の財産として守り、育て、次の世代に引き継いでいくために、自然保護思想の普及啓発に努めている。

愛鳥ポスターコンクール

愛鳥週間（5月10日～16日）を機会に、広く県下の児童及び生徒から愛鳥週間用ポスター原画を募集し、その製作過程を通じて野生鳥類について保護思想を高めるとともに、一般県民への普及、啓発を図るため、愛鳥ポスターコンクールを実施しており、平成16年度の応募及び表彰状況は次のとおりである。

・応募者数 252名（32校）

（内訳）小学校：132人（14校）

中学校：52人（9校）

高等学校：68人（9校）

・入選者数

金賞（知事賞）：9点（小学校3、中学校3、高等学校3）

銀賞（愛媛県自然保護協会会長賞）10点（小学校6、中学校2、高等学校2）

銅賞（ ” ” ）11点（小学校7、中学校2、高等学校2）

佳作（ ” ” ）14点（小学校6、中学校3、高等学校5）

6 省資源・省エネルギー運動推進事業

省資源・省エネルギー運動を県民運動として推進し、県民意識の高揚を図るため、省資源・省エネルギーポスターの募集や省エネ・リサイクル親子見学会を実施したほか、リーダー研修会を実施するとともに啓発資料の作成・配布を行った。

(1) 省資源・省エネルギーポスターの募集

小・中学生を対象に省資源・省エネルギーをテーマとするポスターを募集し、省資源・省エネルギーに関する意識を高めるとともに、作品展を実施し広く普及啓発を図った。

・応募作品数 312作品（小学生 194作品、中学生 118作品）

・入賞作品数 最優秀賞（2作品）優秀賞（9作品）佳作（18作品）

(2) 省エネ・リサイクル親子見学会

環境にやさしいライフスタイルへの転換を推進するために、省エネ・リサイクルをテーマに親子で考える見学会を実施した。

- ・実施日 平成16年8月5日
- ・見学施設 県紙産業研究センター、再生紙関連工場
- ・参加人数 39名

(3) 省資源・省エネルギーリーダー研修

省資源・省エネルギー運動の担い手である地域のリーダー等を集めて、省資源・省エネルギーに対する意識を高め、さらに活動の輪を広げていくことをねらいとして研修を行った。

- ・開催場所 県総合社会福祉会館 視聴覚室
- ・開催日 平成17年2月22日
- ・参加者数 35名
- ・テーマ 「ふるしきは地球となかよし ふろしき活用術」

(4) 啓発資料の作成・配布

啓発リーフレットを9,500部作成し、省エネルギー月間(2月)に配布した。

7 暮らしの中の省資源問題啓発事業

省資源・省エネルギー・リサイクル運動について、効果的な意識啓発や生活に根ざした実効性の高い運動を展開するため、資源の再利用研修会や省資源に関する講習会等を開催し、省資源についての意識啓発を行った。

- ・委託先 えひめ生活センター友の会
- ・実施状況 資源の再利用研修会・省資源に関する講習会・展示会等 19回(松山市他)

8 エコファミリー育成啓発事業

環境にやさしい買い物キャンペーン(10月)の実施やエコファミリー育成講座を開催し、資源の節約とゴミの減量化や家庭の省エネ意識の高揚を図り、環境に配慮したライフスタイルへの転換を推進した。

また、環境にやさしい買い物を推進する基礎資料とするため、環境にやさしいライフスタイルに関する調査を実施した。

(1) 環境にやさしい買い物運動の推進

「買い物」を通して地球環境や廃棄物などの環境問題を考え、環境に配慮したライフスタイルの実践を促進するために、マイバッグの持参や環境に配慮した商品の販売・購入、簡易包装の促進等を内容とする「環境にやさしい買い物キャンペーン」を10月に実施するとともに、マイバッグモニターを募集した。

(2) エコファミリー育成講座の開催

各地方局ごとに、グリーンコンシューマー、環境家計簿等をテーマに意識啓発講座を開催(表2-13-4参照)した。

表 2 - 13 - 4

地 方 局	開 催 場 所	開 催 年 月 日	参 加 者 数
西 条	小 松 町 中 央 公 民 館	平成16年 7 月21日	30人
今 治	今 治 地 方 局 大 会 議 室	平成16年11月30日	38人
松 山	松 山 地 方 局 会 議 室	平成16年 9 月14日	31人
八幡浜	八 幡 浜 商 工 会 議 所	平成17年 1 月28日	155人
宇和島	宇 和 島 地 方 局 会 議 室	平成17年 2 月22日	65人

(3) 環境にやさしいライフスタイルに関する調査の実施

買い物等における環境配慮の意識調査及び買い物袋の持参率調査を県下19店舗の店頭等で実施した。

調 査 期 間：平成16年10月～平成17年 1 月

環境配慮の意識調査：回答者3,042人（男性886人、女性2,156人）

持 参 率 調 査：集計数24,654人（男性4,149人、女性20,505人）

持参率 7.0%（最高店舗19.1%～最低店舗0.8%）

第5章 県民参加型環境教育・学習の推進

今日の環境問題は、生活排水による水質汚濁や自動車の利用増大による大気汚染・騒音、消費の拡大による廃棄物の増大など身近な問題から、地球温暖化、オゾン層の破壊などの地球規模の問題まで、複雑多様化しており、これらの環境問題に対応するためには、県民一人一人が日常生活と環境との関係について理解と認識を深め、環境に配慮した責任ある行動をとることが不可欠と考えられる。

このため、家庭、学校、地域など多様な場で、それぞれ年齢階層に応じた環境教育・環境学習の推進が必要である。

第1節 学習機会の拡充

1 環境マイスター派遣事業

県民が自主的に環境学習に取り組む際の支援制度として、県内に在住する環境活動のリーダーや研究者などを専門分野別に「環境マイスター」として登録した。地域の環境活動グループや町内会、PTAなど各種団体が学習会や講演会などを開催する場合に、マイスターを講師として派遣している。

- ・派遣先 地域環境活動グループ、学校、PTA、自治会、その他各種団体等が行う環境学習会等で、県民を対象として、参加者が概ね20名以上で、政治、宗教及び営利を目的としないもの。
- ・申請等窓口 派遣を希望する団体等の受付や、派遣に適した環境マイスターの選定等は、愛媛県体験型環境学習センター（えひめエコハウス）のエコライフ推進員が行う。
- ・登録内訳 事業系環境保全部門25人 生活環境保全部門22人 自然環境保全部門36人
- ・派遣経費 環境マイスターの派遣に要する経費（謝金）は、県が負担する。



環境マイスター活動状況

2 えひめ環境大学

環境関連の専門の実務者や環境保全活動者などに、より高度な環境知識を修得してもらうため、学識経験者や環境分野の専門家を講師として迎え、専門的で質の高い講義内容の「えひめ環境大学」を実施した。平成16年度は、メインテーマを「環境問題としての“食”」に設定し、表2-13-1のとおり開催した。受講者は120人で、5回中4回以上の受講者には修了証書を交付した。

表 2 - 13 - 1 えひめ環境大学の開催実績

年月日	演 題 及 び 講 師
16. 7.17 (土)	「食と農を多面的に考える - 食料自給率から環境問題まで - 」 東京大学大学院農学生命科学研究科教授 生源寺眞一
16. 8.21 (土)	「スローフード - 持続可能な循環型ライフスタイルを考える視点 - 」 月刊「ソトコト」編集長 小黒 一三
16. 8.28 (土)	「食品安全関連法の整備から1年をふりかえる」 雪印乳業株式会社社外取締役 日和佐信子
16. 9.4 (土)	「環境の時代は「農」の時代」 長崎大学環境科学部助教授 中村 修
16. 9.11 (土)	「総合討論 - 環境問題としての“食” - 」 愛媛県環境創造センター 所長 立川 涼

3 生涯学習講座開設事業（コミュニティ・カレッジ：環境講座）

県民が、心の豊かさや教養を高め、また、実用的な知識や技術を習得するために、年齢、性別、職業を問わず気軽に学習できる場として、豊富な学習項目と質の高い内容を備えた講座を開催するコミュニティ・カレッジを、平成4年度から開設している。

「環境講座」は社会参画や現代社会の諸問題を解決していくための学習（特別コース）の一つとして平成12年度から実施しており、平成16年度は「身の回りの環境保全の観点から学習し、私たちのライフスタイルを考える」ことをテーマとして、表1のとおり開催した。

表 1 環境講座（コミュニティ・カレッジ）の開催実績

年月日	内 容（テーマ）	講 師
H16.10. 3	生活から環境を考える	愛媛県環境創造センター
H16.10.17	家庭の省エネルギー	環境カウンセラー 藤本 豊實
H16.10.31	くらしの水、環境の水	水をきれいにする会 代表 武井 糸
H16.11.14	現地学習「まつやま R e・再来館」 - 環境市民活動と行政との協働！ -	NPO法人 ふれあいエコクラブ理事長 NPO法人 愛媛リサイクル市民の会
H16.11.28	海と地球環境	愛媛大学 沿岸環境科学研究センター
H16.12.12	豊かな自然への誤解	ODAの木自然学校 校長 高本師津雄
H17. 1.23	自然をみることから始まる	NPO法人 自然環境教育えことのは
H17. 2. 6	自然との共生を考える - 愛媛の山・川・海 -	松山東雲女子大学 教授 石川 和男

4 こどもエコクラブ事業

持続可能な社会を創るためには、21世紀を担う子ども達が将来に渡り環境を大切にする意識を持ち、環境にやさしい暮らし方を実践していくことが必要であるため、環境省では、平成7年度から「こどもエコクラブ」事業を通じて、子ども達の地域の中での主体的な環境の学習や実践活

動を支援し、県では、その普及啓発を図っている。平成17年8月31日現在の登録数は、6市4町、54クラブで会員数1,378人である。

5 「四国はひとつ」4県連携施策 環境教育合同事業

(1) 趣 旨

四国4県が連携して環境教育についての合同事業を実施することにより、海や山、川など先祖が守り引き継いできた四国の優れた環境を、四国4県の共通の財産として、相互に協力しながら、守り続けようとする意識や態度を子どもたちに育む。

(2) 事業内容

環境教育連携協力校への支援及び連携協力校の相互交流の促進

「四国ジュニア環境サミット」の開催

環境教育についての普及・啓発活動

その他、4県連携による環境教育の推進に関すること

(3) 環境教育連携協力校（平成16・17年度指定）について

目 的

4県に小・中・高等学校39校の環境教育連携協力校（以下「連携協力校」という）を指定し、各校における環境学習についての研究実践を促すとともに、その成果を四国の各学校へ情報提供することにより、各県における環境教育の充実に資する。

県内環境教育連携協力校

小学校（5校）、中学校（3校）、高等学校（2校）計10校

新居浜市立垣生小学校、今治市立国分小学校、東温市立西谷小学校、西予市立蔵貫小学校、宇和島市立天神小学校

今治市立伯方中学校、松前町立北伊予中学校、八幡浜市立双岩中学校

愛媛県立丹原高等学校、愛媛県立北条高等学校

研究内容

連携協力校は、地域や児童生徒の実態に応じ、次に掲げるテーマの学習に取り組んでいる。

生活環境（美化、水質、大気汚染、騒音等）

自然環境（飼育栽培、生き物、森林等）

地球環境（温暖化、酸性雨等）

循環型社会（節電節水リサイクルゴミ減量等）

(4) 平成16年度「四国ジュニア環境サミット」の開催について

目 的

四国の環境についての現地研修会を行ったり、環境学習の実践発表をしたりすることにより、互いの交流を深め、四国の環境を守り続けようとする意識や態度の育成を図る。

開催時期 平成16年8月25日・26日

内 容

環境学習（豊島の産業廃棄物処理施設等の見学）

子ども環境フォーラム（各校の発表）

6 高等学校環境教育推進事業

環境教育の一層の充実を図るため、平成11年度まで実施した「地域に根ざす環境教育推進校設置事業」等の実践活動を基盤として、新たに「高等学校環境教育推進事業」を平成13年度から実施している。

この事業では、身近な環境問題に積極的に取り組み、地球的・国際的視野を持って実践することができる生徒の育成、さらにはリーダーとなる生徒の養成を目的とし、「高等学校環境教育実践研究校」の指定、「愛媛の高校生環境サミット」の開催、「環境教育実践活動事例集」の作成・配布を行っている。

(1) 高等学校環境教育実践研究校

概 要

平成13年度から5年間で、全日制57校のすべての高等学校で研究を進めることとしており、平成16年度は11校を環境教育実践研究校として指定した。

環境教育実践研究校は、次に示す六つの分野の中から、1分野を選び、生徒や学校の実態を踏まえた高校生にふさわしい具体的テーマを設定して、家庭や地域との連携を図りながら計画的・継続的に研究を行うこととする。

《研究分野》	
ア	河川や海洋に関する分野
イ	土壌や動・植物に関する分野
ウ	酸性雨や大気に関する分野
エ	廃棄物に関する分野
オ	国際的な環境に関する分野
カ	その他の分野

平成16年度高等学校環境教育実践研究校の取組

環境教育実践研究校では、生徒や学校の実態を踏まえ、高校生らしい深まりのある探究活動を通して熱心に環境問題について取り組んだ。各学校の取組は表2-13-3のとおりである。

表2-13-3

学 校 名	研究分野	研究テーマ	研究の取組内容
新居浜東高校	廃棄物に関する分野	私たちが取り組む環境保護活動	<ul style="list-style-type: none"> ・学校周辺及び国領川の清掃活動 ・ゴミ処理施設見学 ・環境意識調査及び環境標語募集
小松高校	河川や海洋に関する分野	「河川里親制度」を利用した小松川の環境整備	<ul style="list-style-type: none"> ・小松川の環境整備、美化活動 ・小松川の水質、水生生物の調査 ・環境教育講話
今治南高校	土壌や動・植物に関する分野	豊かな自然を次代に受け継ぐ環境教育	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒマワリを用いたバイオディーゼル燃料作りの研究 ・サギソウの保護活動
弓削高校	河川や海洋に関する分野	「海」- 私たちが引き継いで遺していくべき海は? -	<ul style="list-style-type: none"> ・イボニシ(貝)の雌の雄化の調査 ・海藻押し葉づくり ・奉仕活動
松山西高校	廃棄物に関する分野	今、一人一人にできる身近な環境への取組- ゴミ分別細分化の徹底 -	<ul style="list-style-type: none"> ・官公庁や企業等見学 ・ゴミ分別の細分化 ・校内美化活動

松山南高校 砥部分校	廃棄物に関する分野	美サイクル - 資源の有効利用を目指して -	<ul style="list-style-type: none"> ・県体験型環境学習センター見学 ・環境ポスターの制作 ・エコ作品の制作 ・廃棄物等の活用法開発
松山中央高校	河川や海洋に関する分野	身近な環境の改善を目指して - 重信川から学ぶこと -	<ul style="list-style-type: none"> ・「ていれぎ」の調べ学習と栽培 ・指標生物による重信川の水質調査 ・重信川周辺の生態系調査 ・廃食油による石鹸作り
伊予農業高校	廃棄物に関する分野	私たちにできるリサイクル活動	<ul style="list-style-type: none"> ・リサイクルに対する意識調査及び啓発 ・学校周辺の環境調査 ・環境問題に関する課題学習
八幡浜工業高校	その他の分野	3M〔みんな・みづか・ものづくり〕環境教育への取組	<ul style="list-style-type: none"> ・各学科の特色を生かした課題研究 ・夏休み特別企画展や文化祭において展示 ・校内美化活動、ゴミの分別収集
三崎高校	土壌や動・植物に関する分野	地域の植生と土壌生物の調査及び海の環境調査による環境の評価	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の植生や土壌生物の調査 ・海の環境調査 ・環境教育講演会
宇和島水産高校	河川や海洋に関する分野	海と共に - 海から環境を見つめよう -	<ul style="list-style-type: none"> ・宇和海、河川の水質調査 ・不可食部の有効利用、廃油の有効利用 ・アクリル毛糸のたわし作り

(2) 愛媛の高校生環境サミット

目的

すべての県立高校全日制57校の代表生徒が参加し、環境教育実践研究校の研究発表や各校の課題や取組についての研究協議そして先進的な取組をしている講師による講演等を通して、環境教育の改善や充実を図る。

大会の開催

平成17年2月16日に、にぎたつ会館において「愛媛の高校生環境サミット」を開催し、実践研究校代表生徒が各校の活動状況や成果を発表したり、「環境問題への取組から学んだこと」をテーマにパネルディスカッションを行ったりして学習を深めるとともに、愛媛県レッドデータブックの編集に携わられた松山東雲女子大学の石川和男教授の講演を通して、自校の取組を見直し、より充実させていくための方法等について考えることができた。なお、このサミットは、研究実践校を中心に行ってきたこれまでの「環境教育実践研究校研究協議大会」を発展させたもので、すべての県立高校全日制57校から代表生徒の参加を得て開催したものである。

(3) 高等学校環境教育実践活動事例集の作成・配布

各高等学校への普及と活動内容の深化を目的とし、平成16年度環境教育実践研究校11校の実践研究の結果をまとめた事例集を作成して、すべての高等学校に配布した。

各学校においては、高等学校環境教育実践活動事例集を参考に、創意工夫を生かした取組を通して、環境保全やより良い環境のために主体的に行動できる生徒の育成に努めている。